

アモルメット組み込み電源ボックスの導入(2)

—KOJO のタップとの置き換え(1)—

1. 始めに

中村製作所のアモルメットを搭載した床据え置き型電源ボックス NXP-001 が入荷しましたので、順次現有のタップと置き換えて試聴していきます。

2. アモルメット組み込み電源ボックスの試聴方法

今回は、パワーリベラメント経由で給電する KOJO のタップのうち、JB4350A のマルチアンプシステムの駆動アンプに使用しているタップを NXP-001 に置き換えます。このタップからは次の機器の電源を取っています。NXP-001 にはアナログ用取り口 4 口、デジタル用取り口 3 口がありますので、次のように配分します。

JB4350A の各ユニットの駆動アンプ

ダブルウーファー駆動アンプ：ヒースキット W-6M KT88 プッシュプル×2

→アナログ用取り口

ミッドバス～ツイーター駆動アンプ：芦屋ベルステレオ 45 プッシュプル

→アナログ用取り口

スーパーツイーター駆動アンプ：Pilotone 6V6 プッシュプル×2

→デジタル用取り口

チャンネルデバイダー

アキュフェーズ F15

→アナログ用取り口

上記の他にも、サブシステムのアンプ PX25 の電源も取っていますが、今回は JBL4350A の駆動アンプへの効果を評価します。



音源は BZT9000 の BS 録画再生、EMT981 からの CD 再生、FIDATA HFAS1-S10 による 11.2MHzDSD 音源再生と BRD-UT16WX からの CD 再生とします。

3. アモルメット組み込み電源ボックスの試聴結果

これまでの種々の対策で、JBL4350Aの鋭角的なエッジの効いた音はかなり抑制され、弦なども聴きやすくなっています。

KOJOのタップをNXP-001に置き換えますと、BZT9000のBS録画再生では、中高域はしなやかに、低音はよく弾み、明瞭さが増してきます。

EMT981からのCD再生では、もともとアナログ的な音のするEMT981からのCD再生が、さらにしなやかな音になり、JBL4350AでCDを聴いているということを忘れさせるくらいです。

FIDATA HFAS1-S10による11.2MHzDSD音源再生では、よりDSD音源らしい、しなやかな音になります。

FIDATA HFAS1-S10によるBRD-UT16WXからのCD再生では、CDらしいエッジの効いた音が幾分残っていたのが、実にしなやかで、ディテールの再現も好ましく、これまでのJBL4350Aらしからぬ音になってきました。

説明書によれば、100時間程度の通電で本領を発揮するとのことですが、上記では数時間程度の通電でも十分効果は分かります。

4. まとめ

パワーリベラメンテ経由で給電するKOJOのタップをNXP-001に置き換えますと、JBL4350Aらしからぬ、しなやかな音が出てくるようになりました。パワーリベラメンテとの相性も良さそうです。

以上